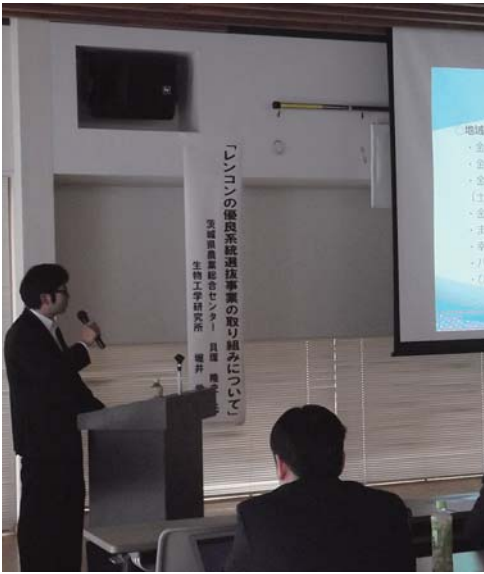


土浦普及センターだより

平成28年8月3日 No.41
茨城県南農林事務所経営・普及部門
(土浦地域農業改良普及センター)
土浦農業改良普及事業推進協議会
土浦合同庁舎第二分庁舎3階
土浦市真鍋5-17-26
TEL 029-822-8517
FAX 029-822-7370
URL <http://www.pref.ibaraki.jp/hourinsuisan/nannourin/keiei/tsuchiura/index.html>

レンコン生産者研修会開催



右上：研修会の様子
左上：生物工学研究所研究員による講演の様子
右下：講演で紹介された優良系統選抜事業品質評価会の様子。産地、関係機関が一体となって、レンコンの優良系統選抜に取り組んでいます

二月二三日、霞ヶ浦環境科学センターにおいて「レンコン生産者研修会」を開催し、レンコン生産者や関係機関など、一四〇名が参加しました。本研修会は、主に土浦地域の生産者を対象として、普及センターが隔年で開催しています。

今回は、平成二五年から産地、関係機関が一体となって取り組んでいる「優良系統選抜事業」、産地共通の課題である「黒皮症についての研究状況」、レンコンの養分吸収特性に適合した「効率的施肥法」の三つのテーマについて、茨城県農業総合センターの専門技術指導員や生物工学研究所、園芸研究所の研究員が講演を行いました。

参加者からは、堆肥などの有機物資材の効果的な使用方法や病害虫防除についての質疑が上げられ、活発な意見交換が行われました。

普及センターでは、レンコン生産者研修会の定期開催などを通して、レンコン産地のさらなる発展を支援していきます。





イネ縞葉枯病が増えています！

県西地域を中心に、イネ縞葉枯病の発生が多くなっています。県南地域でも、昨年に比べると発生が増えています。まだ発生が少ないうちに防除対策を行い、イネ縞葉枯病の被害の拡大を食い止める必要があります。

イネ縞葉枯病は、イネ縞葉枯ウイルスを持ったヒメトビウンカ（写真一）がイネを吸汁することにより感染するウイルス病です。ヒメトビウンカがイネ縞葉枯病株を吸汁すると、ウイルスを獲得し、他のイネに感染させます。

イネ縞葉枯ウイルスに感染すると、葉に淡黄色の縦縞ができ、穂が出すくんだり（写真二）、出穂しても不稔になって減収します。

イネ縞葉枯ウイルスに感染してしまつと、治療する方法はありません。対策は、媒介虫であるヒメトビウンカを防除して感染の機会を減らすことです。

今後の防除対策は、発病株から発生するひこばえをヒメトビウンカが吸汁すると、ウイルスを獲得してしまつので、収穫後は早めに水田を耕起し、ひこばえの発生を防止しすることです。

来年の育苗時に、ヒメトビウンカを対象に、薬効が長期間持続する育

苗箱施薬剤で防除しましょう。



写真一 ヒメトビウンカ



写真二 穂の出すくみ



野菜類に発生するウイルス病について

野菜類には様々なウイルス病が発生し、収量低下や生育不良などを引き起こします。ウイルス病の多くはアブラムシ類、アザミウマ類、コナジラミ類などの微小害虫を介して感染し、モザイク症状、萎縮・奇形症状、萎凋症状などを発症します。

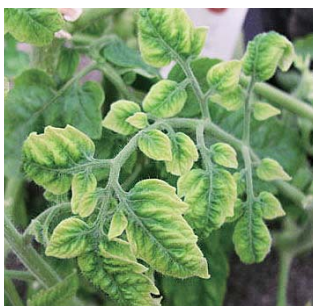
ウイルス病に一度感染してしまつと、治療する農薬はありません。予防対策は、左記のとおりです。

- ①ウイルスを媒介する害虫の防除。農薬や粘着板、防虫ネットなどを利用し、発生予防に努めましょう。
- ②害虫の生息場所となる雑草等の除

去。ウイルスには複数の植物種に感染するものもあるため、ほ場周辺の雑草や他作物にも注意が必要です。

③感染源となる感染株の抜き取り。ほ場外への持ち出し。感染株は収量や品質が大きく低下しがちです。病気の早期発見・迅速な除去がウイルス病感染拡大防止に非常に有効です。

④抵抗性品種の利用。品目やウイルス病の種類は限られますが、抵抗性品種の利用は効果的です。ただし、抵抗性品種でも感染・発症する場合がありますので、注意が必要です。



トマト黄化葉巻病の黄化萎縮症状（茨城県農業総合センター病害虫防除部提供）



キュウリモザイクウイルスによるズッキーニのモザイク症状



土浦市 れんこん道場開催

土浦市では、「土浦市霞ヶ浦周辺地区都市と農村の交流事業推進協議会」が中心となり、地域の活性化のためのPR活動「土浦れんこん道場」を開催しました。

この取り組みは平成二五年から開始され、これまでにレンコンの植付・収穫体験や、花の観賞会などを行ってきました。昨年度は、霞ヶ浦とレンコンに関する学習活動や、花托を使った工芸体験、親子参加型のレンコンを使った料理教室等を開催しました。



（写真：野外学習活動の様子）

かすみがうら市

「はすの実工房」が食農教育講演

五月十九日、かすみがうら市でレンコンの惣菜加工及び販売を行っている「はすの実工房」が、かすみがうら市学校給食運営協議会に対して食農教育講演を行いました。レンコンの生産状況や栄養成分、節ごとの美味し



茨城県が誇るナシ新品種「恵水」(けいすい)

「恵水」は、茨城県が育成したナシの新品種で、南国フルーツに似たトロピカルな甘さ溢れる瑞々しい大果の秋梨です。「新雪」に「筑水」を交配した実生から選抜し、平成二三年に品種登録されました。

「恵水」の主な特徴は、▼果実は六〇〇g程度と大玉で収量性が高い▼糖度は一三%と甘みが強く酸味が少ない▼収穫時期は九月上旬▼冷蔵貯蔵(二℃)することで、三ヶ月の長期保存が可能等です。



収穫間際の恵水 (茨城県農業総合センター提供)

平成二五年から苗木の販売が行われ、県内では六六五a、土浦普及センター管内でも石岡市を中心に、お



特選恵水 (茨城県農業総合センター提供)

よそ一〇〇a栽培されています。平成二八年は県全体で約一・五tの「恵水」が販売される予定です。なかでも、五Lサイズ以上の大玉、かつ秀品で、糖度センサーにより選果された糖度一三%以上のものは「特選恵水」として販売されます。本格的な出荷は今年からで、店頭には並ぶ数はまだまだ少ないですが、美味しさ抜群の「恵水」を、見かけたら一度ご賞味ください。



コギクの白さび病対策

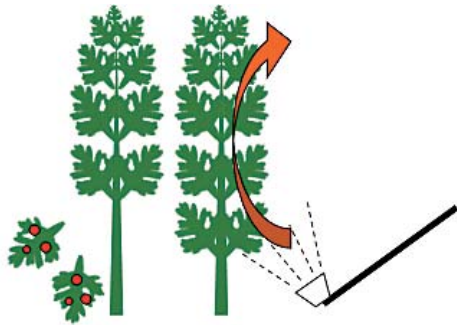
近年コギクは需要期前の白さび病の被害が大きく、品質低下、収量減少に繋がっています。本年も温暖湿潤な気候から五月ハウス出荷より白さび病の発生が見られ、作型問わず発生しています。

白さび病は気温二〇℃前後で多湿の時に発病が多くなります。葉裏にオレンジ色の菌そうを生じ、胞子は風により飛散、長期にわたって感染力を持ちます。天候条件を把握し、降雨前は予防剤散布を行い、発生後は早急に治療剤の散布を行います。

白さび病防除のポイント

①白さび病菌は葉裏に病斑を生じするため、葉裏にしっかりと薬剤がつくよう下からあおるように散布し、浸透性・浸透性のある薬

剤を散布しましょう。②多発場所は罹病葉をかいで場外に持ち出すとともに、風通しを良くしましょう。また、雨などの水の跳ね返りで発生するので、雨の翌日は薬剤散布を行います。③発生後はただちに治療剤(抑制剤)散布を行い、その後は予防剤散布を行います。同じ剤系の薬剤を繰り返し使うことは、薬剤耐性菌の発生を助長するので、ローテーション散布に努めましょう。



防除のポイント
・葉裏に薬剤がかかるよう散布
・罹病葉の除去



(写真：講演会の様子)

い調理方法のほか、はすの実工房による地産地消の取組みや地域活性化に向けた活動について紹介し、地域の給食関係者へレンコンの地産地消推進の働きかけを行いました。

石岡市

いしおかフルーツプロジェクトでも今年も高品質果実の販売を開始します。石岡市は、JA新ひたち野、JAやさと、筑波大学、普及センターと連携し、高品質果実の生産・販売に取り組んでいます(いしおかフルーツプロジェクト)。今年も、ナシ、ブドウ、カキの生産者三七名が、樹を限定して自慢の果実を育てており、八月中旬からは、高糖度・大玉の特別な幸水ナシを販売します。



(写真：「ありのみ」ナシ(二玉用化粧箱))

青年農業士に新たに認定

今年度、青年農業士として、かすみがうら市の小松崎友二氏（花き・露地野菜）が茨城県知事の認定を受けました。

かすみがうら市小松崎友二氏



小松崎氏は、オラス、ニンジン、ホウレンソウ

を主体とした多品目栽培を行っています。雇用者の農業技術習得や県南地域の農産物PR活動に積極的に取り組んでおり、今後の活躍が期待されます。

農業二十退任者

今年度、以下の方が退任されました。

女性農業士

土師 礼子氏

青年農業士

潮田 陽一氏

ありがとうございました。

農作業安全・大型特殊免許（農耕用）等取得研修のお知らせ

トラクターの基本操作と安全運転技術を習得し、大型特殊免許（農耕用）またはけん引免許（農耕用）の取得を目指します。研修を希望される方は県立農業大学校に直接お申し込みください。ご不明な点は普及センターまでお問い合わせください。

場 所 茨城県立農業大学校（茨城町長岡）
 定 員 各回25名程度 ※定員を超過した場合は抽選
 経 費 8,958円（受講料、テキスト代、傷害保険料、免許証交付手数料等）
 申込み先 茨城県立農業大学校庶務部研修科（TEL 029-292-0419）
 問い合わせ先 県南農林事務所 経営・普及部門（担当：矢部）（TEL 029-822-8517）
 研修時期及び受付期間

回	受付期間	研修時期
第7回	10月24日（月）～11月4日（金） 抽選日：11月10日（木）	平成29年1月16日（月）～19日（木）
第8回		平成29年2月6日（月）～9日（木）
第9回		平成29年2月27日（月）～3月2日（木）

※今年度の第1～6回の受け付けは終了しました。

平成29年度茨城県立農業大学校入学生募集

農業の実践力を養います。4年制大学への編入資格も得られます。

募集人員等

区分	学科名	募集人員	受験資格	修業年限	専攻コース
学 科	農 学 科	40名	高校等を卒業した者又は平成29年3月に卒業若しくは修了見込みの者	2年	普通作・露地野菜・果樹
	畜産学科	10		2年	畜産
	園芸学科	30		2年	施設野菜・花き
研 究 科		10	農業大学校卒又は短大等卒以上若しくは卒業見込みの者	2年	作物・園芸・畜産

願書受付・入学試験

試験区分	願書受付期間	試 験 日	選抜方法
推薦入試（各学科）	平成28年10月3日（月）～10月21日（金）	平成28年11月2日（水）	小論文・口述試験（個別面接）・調査書等
一 般 入 試（各学科）	前期	平成28年11月14日（月）～12月7日（水）	筆記試験・口述試験（個別面接）・調査書等
	後期	平成29年2月6日（月）～2月24日（金）	
研 究 科 一 般 入 試	平成28年11月14日（月）～12月7日（水）	平成28年12月15日（木）	筆記試験・口述試験（個別面接）・調査書等

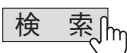
授業料等

- ・入学試験手数料（2,200円）、入学金（5,650円）、授業料（年118,800円）、自治会費他
- ・学科1年生は全寮制（1人食費月額約30,000円）、学科2年生及び研究科は希望入寮制

問い合わせ先

〒311-3116 東茨城郡茨城町長岡 4070-186
 茨城県立農業大学校 入試事務局 TEL 029-292-0010

農大ホームページ 農業総合センター農業大学校／茨城県



いばらき営農塾の御案内

いばらき営農塾は、就農して間もない方や、これから就農する方が、講義や実習を通して基礎的な農業技術を学ぶことができる、県立農業大

学校で開講している研修です。県立農業大学校のホームページから申込用紙をプリントできます。希望される方は普及センターまで御連絡ください。